

沖縄県竹富島の奉納舞踊「しきた盆」に関する一考察

A Study of dedication dance “SIKITABUN” in Okinawa Prefecture Taketomi Island

寺 岡 真知子
Machiko TERAOKA

はじめに

国の重要無形民俗文化財に指定されている沖縄県竹富島の種子取祭は粟などの穀物の種子を蒔き下ろし、種子の無事発芽とつつがない成長を祈念する農耕儀礼の祭祀である。毎年陰暦の9月～10月の甲申の日から癸巳の日に至る10日間に亘って執り行われる。その中で五日目の戊子の日は祈願の中で最も重要な日とされ、作物の種子が土に根付く日と信じられている。当日、家々では家長が祓い清められた小さな円形の土を耕して、そこに粟、白餅粟、麦、黍、高黍など五穀の種子を蒔き下ろす「種子取」の儀礼的行事が行われる。また種子取祭の神饌である飯初を作る日でもある。奉納芸能は七日目の庚寅、八日目の辛卯に執り行われ、庭の芸能、狂言、組踊り、舞踊など約70点の芸能が島の二つの集落（波座間、仲筋）の住人やその出身者によって、神前で奉納されている。

本研究では、竹富島の最大神事である種子取祭に毎年奉納され、1973年竹富町の無形民俗文化財として指定された島の代表的な古典舞踊の一つ「しきた盆」に着目し、美的運動文化としての側面から捉え、作品の構成・動き・内容など舞踊要素について検討することによって、舞踊作品の構造及びその表現特質を明らかにしたいと考えた。

方 法

- (1) 2010年10月7日沖縄県竹富島において執り行われた国の重要無形民俗文化財種子取祭での奉納舞踊「しきた盆」の演舞過程、出羽（入場）から入羽（退場）までの全形を収録
- (2) 収録した映像をデータ保存し、その主要な振りを静止画作成
- (3) 静止画を連ねて作品の主な動きのフレーズを作成

結果と考察

I 「しきた盆」の舞踊構造

しきた盆とはお客様の前に供えられたご馳走を盛った美しいお盆という意であり、竹富島

を眺めた形状が石垣島の前に置かれたお盆のような島だと例えている。この歌の1～4番は、竹富島の生んだ偉人西塘が詠んだものである。西塘は今から460年程前に首里王府での忠勤が認められ、八重山最初の頭役人（竹富大首里大屋子）になった人物であり、郷里の竹富島に八重山の蔵元（行政府官庁）を設置したが、残念なことに竹富島は土地が狭く、交通が不便なためその後蔵元を石垣島に移した。西塘はその後も竹富島に思いを馳せ、島の情景を詠ったとされている。さらに時代が経過した後、西塘の八重山統治を称え、竹富島での八重山初の造船、頭職が乗る公用船の誕生を詠う5～10番までの歴史歌が追加された。最後の11番目の歌詞は島の協調精神を詠ったものであり、大正9年に竹富村の村長になった上間広起氏の作であると伝えられている。「しきた盆」は風土、歴史、生き方などを織り込んだ三部形式の格調高い歌となっている。上間氏はまた「しきた盆」の舞踊化にも尽力し、当時の舞踊師匠（前我名マンダル、崎山苗）にこの歌の振付け創作を依頼、昭和3年の御大典奉祝式典において初めて披露されている。

(1) 歌 詞

<しきたぶん節> (1番～4番)

- 1 ^{タキドゥン} 竹 富ぬ ハイ ^{ナカダギ} 仲 嵩ぬ ^{シマ} 島 やヨー
ウヤキ ユバ ヨー タボラル
- 2 ^{シマ} 島 やりどう ハイ ^{ブン} 国 やりどう く ゆさる
ウヤキ ユバ ヨー タボラル
- 3 ^{ウフィシャギ} 大石垣 ハイ ^{ウフムトゥ} 大 元ぬ ^{マ ショウメ} 真正面に
ウヤキ ユバ ヨー タボラル
- 4 しきたぶん ハイ まうき^{シマ}島 てい いやりる
ウヤキ ユバ ヨー タボラル

<うふだい節> (5番～8番)

- 1 うふだいぬ ^{カシラシュ} 頭 主ぬ ^{ハジ} 始まる
- 2 ^{タキドゥン} 竹 富ぬ ^{ナカダギ} 仲 嵩ぬ ^{ハジ} 始まる

3 ^{ウフウラ}大蔵ぬ ^{タマウラ}玉蔵ぬ ^{ハジ}始まる

4 ^{ムトウカイ ジ}元皆治 ^{ウラカイ ジ}浦皆治 ^{ハジ}始まる

〈まへらつ節〉（9番～11番）

1 ^{ウヤ}親ましぬ ハイヤースーリ
かりゆしぬ マタユイサ
^{ハジ}始まるヨ ハリユバナウレ

2 ^{バナ}ぶさし崎 ハイヤースーリ
^{カン}^{バナ}神ぬ崎 マタユイサ
^{ハジ}始まるヨ ハリユバナウレ

3 かいしくさ ハイヤースーリ
うつぐみどう マタユイサ
^{マサ}勝りようるヨ ハリユバナウレ

(2) 歌 意

〈しきたぶん節〉（1番～4番）

1 竹富の ハイ 仲嵩（竹富の対語）の島は
豊カナ 世ヲ 賜リマスヨウニ

2 島だから ハイ 国（島の対語）ゆえに 小さい
豊カナ 世ヲ 賜リマスヨウニ

3 大きな石垣島の ハイ 大きな元島（石垣島の対語）の 真正面に
豊カナ 世ヲ 賜リマスヨウニ

4 お盆のような島 ハイ （石垣島の）前に置かれた島と いわれている
豊カナ 世ヲ 賜リマスヨウニ

〈うふだい節〉（5番～8番）

- 1 頭主（八重山の最高位の役職）の 始まりは
- 2 竹富島の 仲嵩（竹富の対語）で 始まった
- 3 大蔵元（八重山の行政庁） 玉蔵元（大蔵元の対語）の 始まりは
- 4 元のカイジで 蔵元のカイジで 始まった

〈まへらつ節〉（9番～11番）

- 1 公用船（頭主が乗る）の ハイヤースリー
嘉例吉の船の マタユイサ
始まりは ハリ 世ヨ 直レ
- 2 ブサシの浜辺で ハイヤースリー
神の岬で マタユイサ
作り始められた ハリ 世ヨ 直レ
- 3 返ってくるぞ ハイヤースリー
助け合いこそ マタユイサ
大切である ハリ 世ヨ 直レ

(3) 楽 譜

聲楽譜附竹富島民謡工工四

竹富島公民館認定 崎山三郎編著

四	工 [・] 尺 [・] 工 [・]	工 [・] 尺 [・] 工 [・]	工
合	五	合	四
老四	尺 ^五 尺 ^五 尺 ^五	五 ^ハ 五 ^ハ 五 ^ハ	合
合 ^{の合}	工	七 ^ハ 七 ^ハ 七 ^ハ	老四
老	上 ^シ 上 ^シ 上 ^シ	五 ^ハ 五 ^ハ 五 ^ハ	合 ^{の合}
四 ^ヤ 四 ^ヤ 四 ^ヤ	合	尺	老
合	尺 ^マ 尺 ^マ 尺 ^マ	工 ^カ 工 ^カ 工 ^カ	四 ^キ 四 ^キ 四 ^キ
四 ^キ 四 ^キ 四 ^キ	五	五	合
合	工 ^ヤ 工 ^ヤ 工 ^ヤ	尺 ^ダ 尺 ^ダ 尺 ^ダ	四 ^キ 四 ^キ 四 ^キ
上 ^上 上 ^上 上 ^上	尺 ^上 尺 ^上 尺 ^上	合	合
尺	四 ^ヨ 四 ^ヨ 四 ^ヨ	工 ^ギ 工 ^ギ 工 ^ギ	上 ^上 上 ^上 上 ^上
工 ^バ 工 ^バ 工 ^バ	工 ^工 工 ^工 工 ^工	五	尺

一、竹富ぬハイ 仲當ぬ島やヨー

二、島やりどハイ 国やりどくゆさる

三、大石垣ハイ 大元ぬ真正面に

四、しきたぶんハイ まうき島でいやりる

ウヤキユバ ヨー タボラル

ウヤキユバ ヨー タボラル

ウヤキユバ ヨー タボラル

しきたぶん節

凡六十二拍子
凡一分五秒

本調子

○ ^ダ 中	中	うふだい節 凡四十九拍子 凡四十三秒 二揚調	合	五
工	五		老四	工 [・] 尺 [・] ヨ [・] 工
四	七			尺
五 ^イ 五	工			上 ^尺 上 [・] タ [・] 上
工	工			合
上 [・] 又 [・] 上	尺			尺 ^ボ 尺 ^尺
工	五			五
五 ^カ 工	工			工 ^ラ 工 ^尺 上 ^上
工 [・] 五 [・] 工	上			四 ^ル 四 ^老
○	工			工 ^口
上 ^ラ 上 ^上	○ ^フ 中		四	
下 ^下 老 ^老	四			

一、うふだいの頭主ぬ始まる

二、竹富ぬ仲蒿ぬ始まる

三、大蔵ぬ玉蔵ぬ始まる

四、元皆治浦皆治始まる

四	工	○	
	下老 老四	四	四
	上老 老四	○	老四
	上老 老四	四	四上
	中 老五	上	上
	中 老五	工	工
	七 老五	八	老八
	七 老五	五	老五
	工 老四	工	老四
	工 老四	上	上
	上 老四	工	工
	上 老四	○	老五
	老		

まへらつ節

凡六十五拍子
凡五十七秒

二揚調

一、親^タましぬ
かりゆしぬ
始^シまるヨ
ニ、ぶ^シさし^シ崎^バナ

ハイヤースーリ
マタユイサ
ハリユバナウレ
ハイヤースーリ
マタユイサ
ハリユバナウレ

三、かいしくさ
うつぐみどう
勝利^チりようるヨ
ハイヤースーリ
マタユイサ
ハリユバナウレ

工	合	下 ^{ハタ} 老	五	合	工
五	工 ^ハ	四 ^ハ	七	五	七
下	五 ^リ	上 ^ハ	工 ^ハ	七	五
四	工 ^ハ	下 ^ハ	工 ^ハ	工 ^ハ	工
上	工 ^ハ	○	○	四	工
老	工 ^ハ	四	工	工	五
四	四 ^ハ	上 ^ハ	七	上	下
合	下 ^ハ	工 ^ハ	五	上	四
	四 ^ハ	四	上	工 ^ハ	合
	下 ^ハ	○	七	五	○ ^ハ 合
	四 ^ハ	四	四	七	・ ^ハ 四
	合	上 ^ハ	下	五	合
	工	四	乙	○ ^ハ 工	工 ^ハ
	五	下			
	七	四			
	五	四			
	工	四			

(4) 「しきた盆」全体構造

構成	動作と運動形式	歌詞・音楽
----	---------	-------

出 羽（登場）

- ① 舞台上手袖から下手へ摺り足歩行 ……………前奏
- ② 舞台中央で正面向き基本立ち……………前奏

前踊り〈しきた盆節〉

- ③ 始動 立ち位置で腰落とし……………たき
- ④ 下手向きから正面向き……………どうんぬ
- ⑤ 左足から正面に進む……………ハイなかだきぬしま
- ⑥ 下手斜め前腰落とし……………やよ
- ⑦ 下手向きから正面向き基本立ち……………歌出しまでの間奏 ウ
- ⑧ 腰落とし下からこねり手左回り後正面へ進む……………ヤキユバヨータバラル
- ⑨ 左回り正面向き基本立ち……………間奏
- ⑩ 下手向き両手胸前から正面向き両手横開き……………しまや
- ⑪ 左足から正面に進む両手胸前交差から両横へ……………りどう
- ⑫ 正面に進む両手両横から胸前へ……………ハイ
- ⑬ 両手胸前交差のまま下手斜め前向き……………ふん
- ⑭ 両手横開き小円を描く右足突き……………やりど
- ⑮ 右足引き寄せ正面向き……………うく
- ⑯ 両手横から真上さらに下へ左足から正面へ進む……………ゆさる
- ⑰ 下手向きから正面向き基本立ち……………歌出しまでの間奏 ウ
- ⑱ 腰落とし左回り後正面へ進む……………ヤキユバヨータバラル
- ⑲ 左回り正面向き基本立ち……………間奏
- ⑳ 下手向きから上手向き両手胸前肘曲げ左足突き……………うふいしやぎ
- ㉑ 腰落とし下手向き右足突き腰落とし上手向き左足突き……………ハイ うふむとう
- ㉒ 下手向き両手横開き小円を描く右足突き……………ぬ ま
- ㉓ 右足引き寄せ正面向き……………しょう
- ㉔ 両手横から真上さらに下へ正面に進む……………めに 歌出しまでの間奏
- ㉕ 下手向きから正面向き基本立ち……………歌出しまでの間奏 ウ
- ㉖ 腰落とし下からこねり手左回り後正面へ進む……………ヤキユバヨータバラル
- ㉗ 左回り正面向き基本立ち……………間奏

- ②⑧ 腰落とし下手向き両手下手斜め上……………しきた
- ②⑨ 正面向き両手胸前まで下げ小円を描き左足前に……………ぶん
- ③⑩ 右足前おがみ手下手向き両横から真上正面向き……………ハイ まうき
- ③⑪ 両手上のまま正面に進む……………しまていい
- ③⑫ 両手胸まで下し上から真横に開き下ろす……………やりる 歌出しまでの間奏
- ③⑬ 下手向きから正面向き基本立ち……………歌出しまでの間奏 ウ
- ③⑭ 腰落とし左回り後正面へ進む……………ヤキユバヨタ
- ③⑮ 下からこねり両手下げるとともに徐々に座る……………ボラル

笠をはずし、胸前に両手で持つ（後半の踊りの準備のための間合い） 無伴奏

中 踊〈うふだい節〉

- ① 立ち上がり右回り正面向き笠すくい上げ基本立ち……………前奏 う
- ② 腰落とし右手笠上手向きから正面に返し胸前両手持ち……………ふだいぬ
- ③ 右足から正面に進む……………かしらしゆぬ
- ④ 腰落とし笠を上から胸前へ基本立ち……………はじまる
- ⑤ 腰落とし笠を下手上から上手下、上手上から正面基本立ち…歌出しまでの間奏
- ⑥ 腰落とし右手笠を返し上から胸前右回り……………たきどうんぬ
- ⑦ 両手で笠持ち後正面に進む……………なかだぎぬ
- ⑧ 右回り右手笠を上から正面下、下手上から胸前……………はじまる 間奏
- ⑨ 下手胸前から上、上手下から上、正面両手持ち基本立ち……………間奏 う
- ⑩ 下手向きから正面向き右手笠両手胸前から肩上に上げる……………ふうらぬ
- ⑪ 正面に進む笠下から返し胸前で両手持ち基本立ち……………ためうらぬ はじまる
- ⑫ 両手笠を下手上から上手下、上手上から正面胸前基本立ち……………間奏 む
- ⑬ 右手笠を返し右回り後正面向き両手下から上を通し上手胸横へ…とうかいじ
- ⑭ 右手笠を返しつつ両手上を通して下手胸横後正面に進む……………うらか
- ⑮ 右手笠を返しつつ両手上を通して上手胸横後正面に進む……………いじ
- ⑯ 右回り右手笠を上から正面下、下手上から胸前……………はじまる 間奏
- ⑰ 下手胸前から上、上手下から上、正面両手持ち基本立ち……………間奏

後踊り〈まへらつ節〉

- ① 上手向きから正面向き、右手笠を上から返し両手で持つ…間奏 うやましぬ
- ② 正面に進み腰落とし両手で笠を上から胸前へ……………ハイヤースリーか

- ③ 腰落とし右回り右手笠を上から返して胸前へ……………かりゆし
- ④ 後正面に進む右回り正面向き右上から胸前に……………ぬ マタユイサ
- ⑤ 腰落とし右手胸前から上を通し返しながら胸前後正面に進む……………はじまるヨ
- ⑥ 右回り右手笠を上から正面下、下手上から胸前……………ハリユバナウレ 間奏
- ⑦ 下手胸前から上、上手下から上、正面両手持ち基本立ち……………間奏 ぶさし
- ⑧ 腰落とし右手笠胸前右回り2人向き合い……………ばな ハイヤースリー
- ⑨ 左手横からこねり手左回り一回転向き合い……………かんなばな
- ⑩ 互いに向き合い左手とともに前に伸び上……………マタユイサ
- ⑪ 正面向きから右回り右手笠を下から上を通して返し胸前……………はじまるヨ
- ⑫ 後正面に進む右手笠を上から胸前右回り下手向き……………ハリユバナウレ
- ⑬ 笠下手下から上、上手下から上、正面両手持ち基本立ち……………間奏 かい
- ⑭ 正面に進む右手笠持ち両手を開き、前交差を二回続けさらに開く……………しくさ
- ⑮ 右手笠上から下さらに返して正面胸前基本立ち……………ハイヤースリー う
- ⑯ 腰落とし右回り右手笠上から返して胸前後正面に進む……………うつぐみどう
- ⑰ 右手笠を上から胸前右回り下手前向き……………マタユイサ
- ⑱ 腰落とし左回り上手向き右手笠上から返して胸前……………まさりょうるヨ
- ⑲ 右回り下手向き右手笠上から返して胸前……………ハリユバナウレ

入 羽（退場）

- ⑳ 腰落とし右手笠下から上に二回揺らす……………後奏
- ㉑ 左回り上手向き右手笠下から返して胸前両手持ち舞台上手袖へ……………後奏

(5) 踊りの主要動作

出羽

画像①

1'19"



上手奥から下手奥の方向へ摺り足歩行で紅型打掛をつまみ持ちつつ前進。舞台奥中央で左足前時に腰落とし（沈み込み）、伸び上りつつ右足を回しこんで正面を向きもう一度腰落とし、肩幅に右足を開いて八文字立ち（基本立ち）。

前踊 〈しきたぶん節〉

画像②

1'34"



正面腰落としからそのまま下手向き、右足を回しこみ正面向き。

画像③

2'07"



左足から正先へ五歩進む。六歩目右足を下手斜め前に出し伸び上りながら重心をかける。
左足を右足に揃え、腰落としをしをしながら下手を向き、右足を回しこんで正面基本立ち。

画像④

1'29"



腰落としから両手でつまみ持っていた紅型打掛を離し、右足回しこんで左回りつつ下から掌上向きで顔横位置まで上げコネリ手、掌を頭上まで押し上げゆっくり下ろす。左足から四歩正面奥に進みつつ紅型打掛前重ねつまみ持つ。

画像⑤

2'36"



五歩目左足先を左に開き、右足を回しこみ左回りから腰落とし正面基本立ち。

画像⑥

2'52"



腰落とし下手向きつつ紅型打掛を離し両手下から胸前に上げ右足を後に引く。正面を向き腰落とし両手を横に開く。正先に左足から進みつつ、両手を胸前で交差。次に右足で前進しながら両手を横に開く。

画像⑦

3'09"



再び左足で前進し、両手胸前で交差する。その姿勢のまま腰落とし下手を向き、両手を軽く開いて顔前で小円を描きつつ右足突き、右足を後に引きつつ両横に掌を上向きにして大きく広げ正先を向いて腰落とし。

画像⑧

3'22"



伸び上りつつ両手を上に上げ、掌を正面に向けて頭上横で保ちながら左足前進。右足を前に踏み出して重心をかけて両手を下までゆっくり下ろし、左足を右足に揃えて腰落とし伸び上り下手向きになり腰落とし伸び上って正面基本立ち。

画像⑨

3'52"



腰落とし右足回しこみ左回り、左足から四歩正面奥に進みつつ紅型打掛前重ねつまみ持つ。五歩目左足先を左に開き、右足を回しこみ左回りから腰落とし正面基本立ち。

画像⑩

4'16"



腰落とし下手向き、右足を回しこみ両手紅型打掛を離して肘を曲げ胸前で肘から下を重ねて保ち、腰落とし上手斜め前を向き左足突きで重心をかけ伸び上って右足を左足に寄せる。次に腰落とし下手斜め前を向き同様に右足突き、重心をかけ左足を右足に寄せる。再度上手に同様の所作をする。

画像⑪

4'27"



腰落とし下手を向く。両手を軽く開いて顔前で小円を描き、右足を下手斜め前に擦り出して両横に掌を上向きにして大きく広げ右足を引いて正先を向いて腰落とし。両手を両横から掌を正面に向けて頭上に上げながら左足から正先に前進。

画像⑫

4'37"



右足に重心をかけて踏み出すと同時に両手を下に下ろし両足を揃える。腰落とし下手から正先を向いて基本立ち。

画像⑬

5'07"



腰落とし右足を回しこみ左回りしながら下から掌を上顔横まで上げコネリ手、掌を頭上まで押し上げゆっくり下ろす。左足から四歩正面奥に進みつつ紅型打掛前重ねつまみ持つ。五歩目左足先を左に開き、右足を回しこみ左回りから腰落とし正面基本立ち。

画像⑭

5'42"



腰落としから両手紅型打掛を離し下手向き両手掌を下に向け顔前まで上げ腰まで下げながら正面向きになり、左足を前に出しつつ胸前まで掌を上に向けて上げる。さらにその姿勢のまま腰落とし右足を前に出し左足を揃えて下手向きになり、両手を顔横に掌を下に向けて保持する。右足から三歩正先に進む。

画像⑮

5'53"



四歩目左足を踏み込むと同時に両手を胸前に下げ、手の甲を正面に向けながら頭上に上げ、両足を揃えつつゆっくり横から下げる。腰落とし下手向きから正面基本立ち。

画像⑯

6'26"



腰落とし右足を回しこみ左回りし左足から三歩正面奥に進み四歩目で下から顔横まで上げコネリ手、五歩目でゆっくり手を下まで下ろしつつ正面奥に向い正座する。

波笠をはずし胸前に両手で持ち構える。(間合い)

〈中踊 うふだい節〉

画像⑰



波笠をはずし、胸前に両手で持つ（後半の踊りの準備のための間合い）

立ち上がり右足先を右に開き左足を回しこみ右回りし正面向き。波笠を胸前から顔前に上げさらにもう一度胸前で構える。

画像⑱



腰落とし波笠を右手に持ち上手斜め前を向き、伸び上りつつ顔前に上げ正面を向いて波笠を下向きにみぞおち前まで下ろし、さらに裏面を正面に向けつつ顔前まで上げ返して胸前で両手持ち。その姿勢のまま右足から正先に四歩進み、五歩目で腰落とし波笠を胸前から頭上さらに胸前に持ち構える。

画像⑱

8'27"



腰落としから下手向きになり、右足を下手に出し伸び上りつつ両手で波笠を顔斜め上に上げ、右足を回しこんで腰落とし上手を向いて波笠を腰前に落とし、伸び上りつつ顔前さらに左足を引き正面向きになり、右足左足と正面に出しつつ波笠を胸前から頭上、再び胸前に持ち構える。

画像㉑

8'53"



腰落とし右手波笠を下向きに持ち、左足を回しこんで右回りしつつ波笠を胸前から頭上を通して腰落としつつ返して胸前で両手持ち。右足から正面奥へ四歩進み、右足先を右に開き左足を回しこんで右回りしつつ波笠を右手持ちで頭上へ上げてから下向きに上手斜め前に下ろす。

画像②①

9'00"



そのまま正面向きから下手に向き波笠を返しつつ顔前まで上げ、さらに腰落としみぞおち前で構え、伸び上りつつ右足を回しこんで頭上を通して上手向き。

画像②②

9'07"



腰落としつつ波笠を腰前まで下ろし、伸び上りながら正面向きとなり、波笠を顔横からみぞおち前、再度顔前まで上げて両手で持ち胸前で構える。

画像②③

9'36"



腰落とし下手向き波笠を胸前で右手に持ち、両手開きながら正面を向き、右手は波笠の面を正面に向けて顔横に上げ、左手も掌を正面に向けながら顔横に上げる。その姿勢のまま左足から三步正面に進み四歩目で腰落とし、波笠を下向きで腰まで下げて裏面を見せつつ顔前まで上げ、胸前で両手持ち構える。

画像⑭

9'50"



腰落としから下手向きになり、右足を回しこみ伸び上りながら両手で波笠を顔斜め上に上げ、沈み込んで上手向きとなって波笠を腰前に落とし、伸び上りつつ顔前さらに正面向きになって波笠を胸前から頭上、再び胸前に戻して持ち構える。

画像⑮

10'05"



左足回しこみ右回りしつつ右手で波笠を持ち両手下から頭上へ上げ、正面奥へ向いて右手右胸横、左手みぞおち前まで下ろす。正面奥に向かい左足一步前に出し、両手頭上から左手左胸横、右手みぞおち前まで下ろす。右足からも同様にして正面奥に進む。

画像②⑥

10'21"



左足一步前に出し右手波笠を頭上に上げ、右足先を右に開いて右回りし波笠を下向きに腰前まで下ろす。左足を回しこみ正面向きから下手向きとなり腰落とし、波笠は顔前まで上げ、返してみぞおち前に下ろす。次に右足を回しこんで伸び上りつつ、波笠を頭上に上げる。

画像②⑦

10'30"



腰落としつつ上手向きとなり、波笠を頭上から下向きに腰前まで下ろし、再び伸び上りつつ顔前さらに右足左足と正先に踏み出し腰落とし正面に向き波笠を胸前、伸び上って頭上から胸前に戻して両手で持ち構える。

後踊 〈まへらつ節〉

画像⑳

10'46"



腰落として上手向き、右手で波笠の面を上手に向けて持つ。左足を後ろに引きつつ伸び上って波笠を顔前に上げ、正面を向き腰落として波笠の裏面を正面に向けながら腰前から顔前に上げ、返して両手で持ち構える。右足から二歩進み、三歩目で沈み込んで波笠を頭上に上げ、胸前に戻して持ち構える。

画像㉑

11'00"



腰落とし左足を回しこんで右回りしつつ右手で波笠を頭上に上げ、下向きで胸前に保ち正面奥向きに右足から二歩進む。右足先を右に開き右回りし波笠を頭上に上げ返しつつ、正面を向いて胸前に保つ。

画像③〇

11'16"



腰落としし右足先を正面奥に向け左回りで波笠を胸前から頭上を通し下向きに腰前まで下ろし、返して胸前に両手で持つ。正面奥へ左足一歩出し、次に右足を前に出して足先を右に開き右回りで上手向きとなり同時に右手の波笠を頭上へ上げ、正面向きで波笠を下向きに腰前まで下ろし左足を回しこむ。

画像③1

11'30"



正面向きから下手向きとなり腰落とし、波笠は下から頭上さらに胸前に構える。右足を回しこみ伸び上って上手を向きつつ波笠を頭上から腰前まで下ろし、正面向きになって胸前に両手で持ち構える。次に左足を後に引き、右手で波笠の面を正面に向けみぞおち前で構える。

画像③②

11'40"



右足先を右に開いて左足を回しこみ右回りして（下手舞手は半回転、上手舞手は1回転）互いに向き合い、重心を前足に移動すると同時に波笠を前方に伸ばす。

画像③③

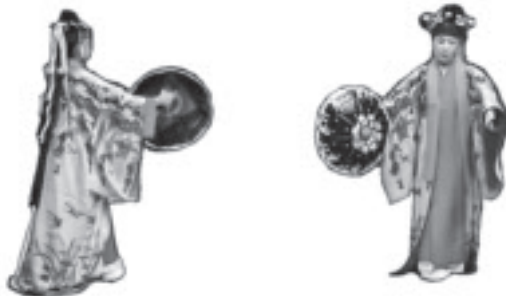
11'42"



互いに左手を横から胸前まで寄せ、コネリ手。

画像③④

11'45"



右手の波笠をみぞおち横に保ちつつ、そのまま左手を横に開き左回りし再び向き合う。

画像③⑤

11'54"



重心を前足に移動すると同時に左手を前方に伸ばす。

画像③⑥

12'12"



正面向きになり腰落とし右足先を右に開き左足を回しこんで右回りしつつ、波笠を下から頭上に上げ、面を下向きにして下げ、胸前に保ったまま右足から二歩正面奥に進む。三步目で右足先を右に開き右回りで波笠を頭上から胸前まで下げつつ、下手を向き腰落とし。

画像③⑦

12'20"



下手から右足を回しこんで正面から上手向き、さらに正面に戻る。波笠は胸前から頭上を通して下向きで上手腰前まで下げ、次に頭上に上げて正面胸前に両手で持ち構える。

画像⑳

12'30"



腰落とし右足を後に引いて下手向き右手に波笠を持ち正面を向いて両手を開く。左足を正先に出し両手を交差。右足を正先に一步出し胸前で両手開く。さらに左足を正面に出し両手交差。

画像㉑

12'42"



右足を一步前に出すと同時に右手持ちの波笠を頭上に上げ、大きく下に下ろして腰落とし裏面を正面に向けながら、顔前まで上げ、胸前に両手で持ち構える。伸び上り左足を回しこんで右回りしつつ右手持ちの波笠を頭上に上げ、下向きにして胸前で保ち正面奥向き。

画像④⑩

12'45"



波笠下向き姿勢のまま、正面奥に下手の舞手が右足より二歩進み、同時に上手の舞手が右足より四歩進む。

画像④⑪

12'59"



右足先を右に開き右回りして下手斜め前向きとなり、波笠を返しつつ頭上から胸前に構える。さらに左足を右足に寄せ、腰落とし右足を回しこんで上手奥向きとなり、波笠は頭上から下向きに下ろし返し胸前に両手持ち構える。

入羽

画像④⑫

全入 13'55"



左足から上手奥に進み、右足を前に出し足先を右に開いて大きく右回り下手斜め前に振り返り、右手の波笠の面を下に向け、下から胸前にゆっくり上げる所作を二回繰り返す

(二回目は上にあてる所作)。右足先を左に向け左回りで上手奥を向き、波笠を下向きから返して両手で胸前に構える。

左足から上手奥に向かい幕に入る。

II 舞踊「しきた盆」の作品分析

舞踊しきた盆は島の風土、歴史、生き方などを織り込んだ格調高い島の代表的な節歌に振付けられ、出羽、前踊「しきた盆節」、中踊「うふだい節」、後踊「まへらつ節」、入羽で構成された三曲展開の踊りである。この作品構成は導入部、主要部、終結部であり、典型的な舞踊構成となっている。各部の時間構成は出羽1秒～1分19秒、前踊しきた盆節1分20秒～6分26秒、間合い（無伴奏）6分26秒～7分27秒、中踊うふだい節7分28秒～10分30秒、後踊まへらつ節10分31秒～13分15秒、入羽13分16秒～13分55秒であった。前半のしきた盆節の踊りの後に、無伴奏で後半の踊りの準備をする間合いがあり、約1分の時間を要している。前半は波笠を被り、間合いで波笠を外し、後半は波笠を持って踊られる。

一人で踊る場合が多い御冠船踊りに対し、八重山舞踊では二人ないし四人という相似的な形式を持つ作品が多く見られ、しきた盆も二人で踊られる。踊りの振りは抽象的であり、歌の内容を暗示する写実的な振り付け舞踊ではない。出羽（登場）では、御冠船踊りにおいては、多くの作品が舞台下手奥の橋掛りから上手前へ斜めに登場するいわゆる角切りという出であるが、八重山舞踊の出羽は舞台の下手奥から上手奥へ幕と平行した摺り足歩行で登場する。竹富島の種子取祭で踊られる舞踊しきた盆では、「神々に向かって奉納される舞踊」という特徴が窺える空間構成で、舞台正面は観客ではなく神々である神前舞台のため、舞台上手奥から下手奥に向かって摺り足歩行で登場する特殊な形がみられる。この摺り足歩行は目線を少し下方に落とし、両足は足の裏を見せないようにして交差せず直線上を進み、踵からつま先へ重心を移動させつつ腰を一定の高さに保つ技法である。前半に踊られるしきた盆節は波笠を被り、黄地紅型打掛を着流しあるいは両手を自然に下ろし打掛の前の左右をつまみ持つ所作で踊り、後半のうふだい節、まへらつ節は笠を小道具として両手あるいは右手に持ち笠の動きを主体とした様々な表現所作を行い、打掛は着流しで踊られる。基本立ちは琉球舞踊女舞の、重心を身体の中央に置きつつ右足を軸に膝を割り左足は横に開き足先を軽く上げるいわゆる女立ちではなく、両足先を軽く外に開いて立つ八文字立ちであり、踊りのひとまとまりの表現動作の始動と終止の要となっている。大きなめりはりとともなう所作は見られず、全身を使った伸び上がり・沈込みと、歩行のリズムによって独特な踊りのリズムを形成し、様式化している。また両手あるいは片手をあげる（拝み）、指を曲げて手首を捻じ曲げまわす（こねり）、掌を押し上げて下ろす（押す）の三要素からなる琉球舞踊及び民俗

舞踊の女踊りの象徴的な手振り動作であるコネリ手がみられる。さらに正先から正面奥、正面奥から正先へ方向転換の際に前回の竹富島奉納舞踊「かぎやで風」の分析結果では、一歩目をまっすぐ正面へ出し、二歩目もそのまま正面に出してから両足同時に方向転換する技法が見られたが、「しきた盆」での方向転換は一歩目に回転する方向内側の足先を外に開き、二歩目に外足を回しこみ、三歩目に内足を進む方向へ向ける技法がとられていた。後踊まへらつ節では舞手が囃子言葉を唄いながら踊り、後奏部分では上手奥に向かい入羽の体制に移った後振り返り、波笠をあてる所作を行い終結部の印象を深めている。

Ⅲ 舞踊「しきた盆」の衣装・小道具・頭飾り

衣装画像



〈衣裳〉

- ・黄地紅型打掛（松・藤・鳥・菖蒲の垂れ下げ文様）、朱色のスディナ、白色のカカン、白足袋

〈小道具〉

- ・波笠（竹で笠の形を作り藍染の糸を使用して波模様をあしらった花笠）

〈頭飾り〉

- ・琉髪、側花、鏡簪（円形の銀の簪）、バサラ、垂れ簪、つゆ玉、紫長巾

IV まとめ

1. 構成は導入部（出羽）、主要部、終結部（入羽）の三部形式をとっており、「しきた盆」「うふだい節」「まへらつ節」の三曲展開の踊りである。
2. 歌の内容は島の風土、歴史、生き方を詠ったものである。
3. 踊りの前半は波笠を被り、後半は波笠を小道具として手に持ち踊られる。
4. 出羽・入羽の方向は神々が正面となる舞台構造上、出羽が上手奥から下手奥へ、入羽が下手前から上手奥へという特殊な形となっている。
5. 踊りの振り付けは歌の内容を暗示する写實的振り付けではなく、抽象的振り付けである。
6. 基本立ちは女立ちではなく八文字立ちの形式をとっている。
7. 全身を使った伸び上がり・沈込みと、歩行のリズムとによって流れるような独特な踊りのリズムを形成し、様式化している。
8. 終結部に振り返り波笠をあてる所作が見られ、踊りの印象を深めている。

今回沖縄県竹富島の種子取祭における奉納舞踊「しきた盆」について表現特質の分析を試みた結果、いくつかの特質が見られた。しかしこれまでの八重山舞踊の表現特質の分析結果とは異なる特質も見られたため、今後さらに竹富島の奉納舞踊について分析を重ね、八重山における舞踊の表現特質を明らかにしていきたい。

参考文献

- 1) 全国竹富島文化協会（2003）「芸能の原風景」瑞木書房
- 2) 本庄正佳（1984）「竹富島古謡誌」竹富島古謡研究会
- 3) 沖縄県教育庁文化課（1979）「沖縄県文化財調査報告書」沖縄県教育委員会
- 4) 新崎善仁（1992）「八重山民謡の考察」八島印刷
- 5) 竹富町教育委員会（1977）「竹富町の無形文化財」オリジナル企画
- 6) 金城光子・喜瀬慎仁（1993）「琉球芸能の基本技法と指導の実際(1)」琉球大学教育学部紀要43集第2部
- 7) 金城光子（1984）「沖縄の踊りの表現特質に関する研究(4)―古典女踊り「伊野波節」について」琉球大学教育学部紀要27集第2部
- 8) 金城光子（1991）「古典舞踊 女踊り」琉球大学公開講座委員会
- 9) 金城光子（1992）「琉球舞踊譜(3)古典舞踊かぎやで風女踊り・老人老女踊り譜」琉球大学教育学部紀要41集第2部
- 10) 金城光子 島袋君子 嘉手刈徹（1998）「琉球舞踊「古典女踊り」の作品特性に関する研究―琉球舞踊の教材化を視野に」琉球大学教育学部紀要30集第2部